2011年6月1日

AUE News

第 17 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目　次

● 行事予定(6 月 1-15 日)
● トピックス
・トラウマケア研修会
・大学祭
・てくてく研修会
・晋州教育大学校から来日団
・天文台一般公開
・彫か版か展
・学生寮防災防火訓練
・指導案作成のためのＷｏｒｄ講習会
・学生寮改修の説明会
・本学同窓会が震災義援金贈呈
・緑高校と新城東高校が本学見学
・男声合唱団がテレビ出演
・教育大学協会東海地区大会評議員会
・学術講演会「アメリカでの日本語教育」
・知立市議団が来学
・名誉教授称号記授与式
● お知らせ・報告・投稿
・中学校・学級づくりセミナー
・附属岡崎中学校にスリKL校から義援金
・東海学生陸上競技対校選手権大会結果
・催しもの案内

行事予定(6 月 1-15 日)

1 日(水)　教務企画委員会（13:30～　第二会議室）
7 日(火)　役員会（13:00～　学長室）
8 日(水)　教育創造開発機構委員会（9：30～　第五会議室）
　　代議員会（13:30～　第五会議室）
　　教育研究評議会（代議員会終了後、第五会議室）
14 日(火)　役員部局長会議（13:00～　学長室）
　　評価委員会（役員部局長会議終了後、学長室）
15 日(水)　教員人事委員会（13:30～　第五会議室）
　　財務委員会（15:30～　第五会議室）

トピックス

トラウマケア研修会(5/18)

5 月 18 日（水）午後 2 時～3 時 30 分、第一共通棟 3 階 301 教室で、教育創造開発機構教育臨床総合センターの主催により、本学教職員および学部学生・大学院生を対象に「トラウマ（心的外傷）ケアについて」の研修会が開催されました。

当センターの相談室では、東日本大震災で被災され愛知県内で避難生活をされている方および避難生活を支援しているご家族を対象に、無料の心理・発達相談を行う準備を進めています。被災者を支援するには、トラウマにかかわる心のケアについての知識が欠かせません。そこで今回、トラウマケアについて研究・実践されてきたセンター研究協力員下村美刈教授（学校教育）にお願いし、臨床心理士としての経験を踏まえてお話し

いただくことになりました。

講演では「災害直後のトラウマ予防ケア」と題するレジュメを基に、「ぜひやってほしいこと」「心理的な反応」「身体的な反応」「役に立つ反応」などについて、分かりやすく説明していただきました。下村先生が強調された、「出来事が異常だったら、それに対する私たちの反応は異常であって当たり前」という言葉が、被災者および被災者を支援する者の心を軽くするように感じられました。研修の中に取り入れられたエクササイズ（ボディワーク）によって、参加者は「グラウンディング（地に足をつけること）」の大切さを体感することができました。

このテーマへの関心が高いせいか、大学祭の休講期間中にもかかわらず、松田正久学長をはじめ、本学教職員・学生約 100 名の参加者を得ました。大学から夏休みに被災地に派遣するボランティア志望学生も、多く参加していたようです。家族が被災地で実際に支援に携わっている学生は「支援者側への支援についても考えるきっかけになりました」とアンケートに記していました。

（教育臨床総合センター長　吉岡恒生）

大学祭（5/18-22）

「第 42 回愛知教育大学大学祭」が 5 月 18 日（水）～22 日（日）に、本学キャンパスで開催され、学生や一般参加者でにぎわった。

今年のテーマは「愛響!!!special harmony」。18～20 日はスポーツ祭で第一・第二体育館、野球場などを会場に、バスケットボール，バレーボール，ソフトボール，卓球などが行われ，学生はそれぞれの競技で気持ちのいい汗を流した。

週末の 21、22 日は大学祭のメーン。構内各所にクラブ・サークル、選修・専攻などがポテト，焼き肉，ジュースなどを販売する模擬店を出店し、客を呼び込む学生の元気な声が響き渡った。教室では寄席，書道展，漫画展，お化け屋敷，人形劇，アカペラ、本学や協定校の紹介、附属図書館前の屋外ステージではバンド演奏やダンスなど多彩な企画が展開され，学生たちは普段の講義を忘れて大学の「非日常」を堪能していた。21 日には、本学で初めて地元コミュニティＦＭ「キャッチ」による生中継が実施され、大学祭の模様がライブで近隣地域に放送された。

てくてく研修会（5/19、20）

聴覚障害のある学生に対して講義での情報保障をするためのパソコンテイクの研修会が 5 月 19 日（木）、20 日（金）に第二共通棟 422 教室で行われた。

主催したのは、本学の情報保障支援学生団体「てくてく」。本学では、1998 年に聴覚障害のある学生が入学したのを機にノートテイクの情報保障を開始して以来、手話通訳の配置やパソコンテイクなどの取り組みがされている。2006 年からは学生有志によるパソコンテイク

の学習会が開かれ、08 年には「てくてく」が組織された。現在、約 60 人の学生・大学院生が登録しており、本学に在籍する 2 人の視聴覚障害学生にノートテイクやパソコンテイクの支援を有償で行っている。

研修会は各日の午前と午後の計 4 回開かれ、合わせて 40 人が参加。映像を見ながら入力のウォーミングアップをした後、2 人１組で連携して入力する方法を練習した。参加者は各組が入力した文章を見比べて、「接続詞、句読点が入っていると読みやすい」「文章が短かいと読みにくいかも」「情報の漏れがなくパーフェクト」などと評価し合っていた。

「てくてく」代表の稲垣吉朗さん（特別支援学校教員養成課程 4 年）は「今回は初心者向けと、スキルアップのための研修。特別支援だけでなく、いろいろな選修・専攻の人が参加しているので、専門性を学びながら、モチベーションを上げるためにこうした研修も行っています。その結果、80～90％の情報量を伝えることができます」という。

また、メンバーは普段からＤＶＤやビデオの字幕づくり、東日本大震災後にはニュース映像に字幕を付けたり、宮城教育大学のテイカーの不足を補うためｉ－ｐｈｏｎｅを通して聴いた音声を画面に文字で送るなどの活動もしている。

晋州教育大学校から来日団(5/19-24)

5月19日(木)から24日(火)までの6日間，本学協定校である韓国 晋州教育大学校から，姜洪在(カンホンジュ)先生と学生10名が，短期研修のため来日した。

この研修の目的は，大きく二つ。(1) 教育大学で教員をめざす韓日の学生が，相互に交流を深めながら，互いの社会・文化を理解すること。(2) 両大学の学生が，それぞれの国で一緒に小学校の教壇に立ち，子どもたちとともに行う実践を企画・実施することを通して，異なる社会における子ども理解，教育理解を深めること。

研修の主な内容は(1) 知立東小学校での授業参加、(2) 本学大学祭でのステージや出店への参加、(3) 地域の方々のホームスティ、(4) 京都での学生交流。

この研修は，2005年から毎年行われており，今回が7回目。今年は，東日本大震災ならびに原発問題があり，一時実施が危ぶまれた。しかし，両大学で可否を検討し，その上で学長同士が確認をして実行した。この際，両大学の多くの学生が，相互にメールなどをやりとりし，研修の実行を後押しした。

知立東小での授業は，晋州教育大の学生たちが，韓国の運動会をテーマに行った。子どもたちはすぐ後に運動会を控えており，たいへん興味深い授業となった。

この研修は，多くの部分で学生たちが自ら考え，自ら行動することが大きな特徴となっている。教員養成における「生きる力」の発現である。様々な問題の中，学生たちは，例年にも増して交流を深め，多くの知見を得たと思う。

この研修は，晋州教育大の多くの教職員の方々はもちろん，本学でも多くの教員・職員でチームを作って対応している。これら方々の力に敬意を表する。

なお，9月には，本学学生が晋州教育大学校を訪問し，附設小学校での授業参加や，大学祭への参加，釜山での学生交流等を行う予定である。

（情報教育講座准教授　江島徹郎）

天文台一般公開(5/21)

本学の天文台で「第 63 回一般公開」が 5 月 21 日（土）に開催され、近隣の親子連れなどが天文観測などを楽しんだ。

大学祭開催中とあって、通常より早い午後 2 時からスタート。昼間の観望会には 23 人が訪れ、参加し、金星とシリウスを 40 ㎝天体望遠鏡で、小型望遠鏡で太陽と太陽黒点を観察した。「３Ｄ宇宙の旅」上映会では 49 人が参加し、学生が主体となって、地球から太陽系、恒星系などを巡る“宇宙の旅”を上映し、迫力ある映像で観客を魅了した。

午後 6 時からの「天文ミニ講座」では、澤武文教授（理科教育）が「重い星ほど早く死ぬ」をテーマに、星の誕生から最期までを天体画像を交えて説明した。同 7 時からの観望会では、62 人の天文ファンや親子連れが参加し、土星とその衛星タイタンを観察。望遠鏡を通して輪の細い土星を目にした参加者からは「作り物みたい」「かわいい」と歓声が上がった。

なお、次回の一般公開は 6 月 4 日（土）午後 5 時からの「サイエンス・カフェ」で、同 7 時ごろから実施の予定。雨天は講演のみ。詳細は天文台のホームページを参照。

http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/index.html

彫か版か展(5/22-29)

刈谷駅前商店街のスペースＡｑｕａで「彫（ちょう）か版（はん）か展」が 5 月 22 日（日）～29 日（日）に開かれた。

同会場では、昨年度は刈谷市制 60 周年記念として本学と連携した展覧会を開催したが、今年度は同商店街とのコラボレーション事業として、美術教育の宇納一公教授がセレクトしたプログラムを実施する。第 1 弾は、本学大学院を修了した専門学校講師の梅本洋子さんと、大学院 1 年の中山友希さんの 2 人による、彫刻と版画の展覧会。

少女が空間に浮遊する空想の世界を描いた版画、若い女性がささやく像など、女性らしい感性が光る彫刻、エッチング、シルクスクリーンなど 18 作品が空間を彩り、来場者の目を楽しませた。

ともに彫刻と版画を学んだ先輩・後輩の 2 人は「すごく面倒みのいい先輩で、姉のように慕っています」（中山さん）「版画も彫刻も“彫る”表現方法でつながっています。たまたま 2 人とも両方を学んでいるから」（梅本さん）と息もぴったり。「この展覧会で私たちの表現を見てもらえて嬉しい」と笑顔で語った。

22 日はワークショップ「ねんど版画で海の生きものをつくろう！」が行われ、近隣の子どもたちが参加。油粘土で海の生き物を形作り、絵具を塗って和紙に転写。カラフルな作品に参加者も満足そうだった。作品は展覧会期間中、会場に展示された。

学生寮防災防火訓練(5/25)

本学学生寮で「防災防火訓練」が 5 月 25 日（水）午後 1 時 30 分から行われた。

東日本大震災もあり、寮生の災害に対する日ごろの危機管理意識を高めることを目的に、今年初めて実施。寮生や留学生会館の留学生、学生支援課の職員ら計25人が参加した。

直下型地震の発生を想定し、寮生が館内放送で非難を呼び掛けるアナウンスをする予定だったが、放送機材が“想定外”の故障のため、寮生と職員が男子寮・女子寮を手分けして回って声を掛け、建物から南側広場に非難した。広場では、火事の初期消火を訓練用消火器を使って、火元に向かって放水を体験。

指揮にあたった伊東裕治学生支援課長は「この地域でも必ず地震は起きます。地震が連動することも考えられ、想定より大きな災害になるかもしれない。日ごろから避難経路を確認するなど、自分の身は自分で守るように心掛けてください」と話し、寮生たちに「地震防災ハンドブック」を配布し、防災意識の自覚を促して訓練を終えた。

指導案作成のためのWord講習会(5/25)

5月25日（水）午後3時から情報処理センターにおいて、教育実習を控えた学生を対象に「指導案作成のためのWord講習会」を開催しました。

毎年、教育実習を前にした春と秋に実施、今回の受講者は3、4年生計6人。文字の装飾や図表配置のテクニックを中心に、実習の体験談も交えつつ、講師を担当させていただきました。学生相談員の補助もあり、参加者の皆さんも実際にWordを操作。「こんな便利な機能があることを初めて知り、参考になった」「苦手だったけれど丁寧に教えてもらえてよかった」とのコメントを頂きました。

指導案作成は教員を目指す学生は必ず通る道。今回講師を担当させていただき、私を含め学生相談員にとっても良い勉強となりました。情報処理センターでは、今後も実習に向け講習会を開催し、実習生を支えていく予定です。受講された皆さん、受講内容を生かして有意義な実習生活を送ってください。（大学院社会科教育専攻　有川道世）

学生寮改修の説明会(5/25)

本学学生寮の改修に向けた説明会が5月25日（水）午後7時から，学生寮共有スペースで行われ，本学の関係者と寮生の話し合いがもたれた。

現在の学生寮は1969年に完成し，建設から既に40年以上が経過しており，改修工事が必要となっている。昨年4月に大学側からその旨が寮生会に伝えられ，寮生会で協議し，同7月に改修工事賛成の決議をした。以来，寮生会は新棟の建設など工事について意見や要望をまとめて大学に提案。大学側は寮生の要望を取り入れて改修を行うことを説明していたが，諸事情により，大学が決めたプランで実施することになり，計画変更について話し合われた。

大学からは，松田正久学長，都築繁幸理事（学生・連携担当），白石薫二理事（財務・施設担当）らが，寮生は約70人（入寮生143人）が参加。焦点は新棟の個室にユニットバスを設置するスペースの確保で，寮生会からは「必要ない」「部屋が狭くなる」などの意見が上がった。それに対して松田学長は「国立大学は教育の機会均等のためにある。学習環境の整備に寮は欠かせない。寮は大学の財産であり，40年，50年後のことを考えるとバス・トイレ付きの方が時代の流れとして必要。寮費をできるだけ抑え，何らかの支援システムを考えてもいいので，理解してもらいたい」と協力を求めた。寮生からは「寮生の意見を聞いて計画を進めるということだったのに」「ユニットバスをつけるメリットが分からない。つけた

方がよい根拠はどこにあるのか」「決まったことを押しつけられて違和感がある」など厳しい声が上がった。

約２時間の協議の末，松田学長は計画変更について学生に「君たちに意見を出してもらいながら、十分に添えない点は申し訳ない」と陳謝。「先の改修については話し合って決めることを約束します。これからも皆さんが寮運営をして，充実した学生生活を送っていただきたい」と話して，この日の説明会は終了した。

工事は今年度から新棟の建設に着工し，2015 年度までに現存する棟の改修を行う予定。

本学同窓会が震災義援金贈呈（5/26）

東日本大震災で被災された方に心よりお見舞い申し上げます。

3 月 11 日に発生した東日本大震災では未曾有の被害が発生し、愛知教育大学の卒業生や在校生、そのご家族でも被災された方もおり、大変心を痛めております。

愛知教育大学同窓会では、東日本大震災で被災された方のために活用していただき、被災地の一日でも早い復興に役立てていただくために、義援金 100 万円を贈ることに致しました。愛知教育大学同窓会が毎年開催しておりました卒業祝賀会を，震災直後であったことから中止しており、卒業生からもその経費を義援金として被災地に役立ててほしいという要望があり、義援金は主に祝賀会開催の経費より充てさせていただきました。

義援金は 5 月 26 日に愛知教育大学同窓会会長・柴田録治氏より、中日新聞社会事業団事務局長・深見豪氏に贈呈させていただきました。中日新聞社会事業団に寄せられた義援金は総額で約 74 億円（5 月 22 日時点）にのぼり、既に宮城、岩手、福島等の被災地の各県に届けられております。同窓会からの義援金も今後被災地で復興の一助となるものと期待しております。

この場を借りて、ご理解とご協力を賜りました会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。また被災された方のご復興を心よりお祈りしております。（愛知教育大学同窓会事務局長　野田敦敬）

緑高校と新城東高校が本学見学（5/26、27）

名古屋市立緑高等学校の 3 年生 64 人と教員 4 人が 5 月 26 日（木），本学の見学に訪れた。

一行はバスで午後 1 時に来学し，本部棟第五会議室で，職員から大学の概要や入試，カリキュラムについて説明を受けた。その後，附属図書館や創造科学棟，自然科学棟の天文台などを見学し，大学キャンパスの様子を見て回り，午後 2 時 30 分に，本学を後にした。

また，5 月 27 日（金）には，愛知県立新城東高等学校の 2 年生 40 人と教員 2 人が来学。同校ＯＢ・ＯＧとの意見交換，職員から本学の概要や入試，カリキュラムなどの説明を受けた。意見交換では鈴木沙知さん（特別支援学校教員養成 3 年），鈴木康太さん（中等国語・書道専攻 1 年）から，「大学では自分の興味のあることを，深く勉強できて面白いです」「この大学では多くの教員免許が取得できます。教員になりたい人は，ぜひ愛教で一緒に学びましょう」などと，体験談を交えて本学を紹介し，高校生たちは先輩たちの話に聞き入っていた。説明の後は，附属図書館や体育館，自然科学棟を見学し，生協で昼食。食事を済ませると，美術実習棟のガラス工房を見るなどして午後零時 30 分まで，キャンパスでの

滞在を楽しんだ。

男声合唱団がテレビ出演(5/26)

本学の男声合唱団が中京テレビの青春バラエティ番組「サタメン」（毎週土曜深夜零時 50 分から放送）に出演することになり，5 月 26 日（木）夕方，学内で練習風景などの撮影が行われた。

男声合唱団は，今年で創部 56 年の伝統を誇る部活の一つ。現在は部員 6 人と小人数ながら週 3 日の練習を続け，3 月の定期演奏会や出張演奏会を開くなど，地道に活動を続けている。「サタメン」には，この地域の大学の男声合唱団にスポットを当てたコーナー「サタメン!!!ＧＡＳＳＨＯ団」があり，本学の男声合唱団にも出演依頼があった。

撮影チームはまず，男声合唱団の部室に向かい，冷蔵庫やテレビ，パソコンなどがそろった室内でくつろぐ 4 人の部員たちを取材。部員たちは，それらの備品は卒団生たちが後輩のために贈ったものだったと説明し，テープレコーダーで録音された 30 年以上前の演奏会での先輩たちの歌声を初めて聴いた感想を語った。

練習では，のんびりムードの部室の様子とは一転し、発生練習，音合わせなどに団員たちは真剣そのもの。自慢のハーモニーを響かせた。

合唱や団の魅力を聞かれると，代表の作道翔馬さん（情報科学コース 3 年）らが「合唱とは，人とのつながり」「気の合う仲間と楽しくやれる点」「人数が少ない分，一人ひとりが個性を出している」などと話した。

30 日（月）には同局のスタジオで出演者のお笑い芸人のオードリーやギャラリーを前に，合唱の収録に挑み，その模様は 6 月 18 日（土）に放送の予定。

教育大学協会東海地区大会評議員会(5/27)

2011 年度日本教育大学協会東海地区大会評議員会が 5 月 27 日（金）午後，三重県津市の三重大学教育学部大会議室で開催され，本学の松田正久学長，白石薫二理事・事務局長，宮川秀俊附属学校部長をはじめ岐阜大学，静岡大学，三重大学の各教育学部長，教授，各大学附属学校の校長，副校長らが出席した。

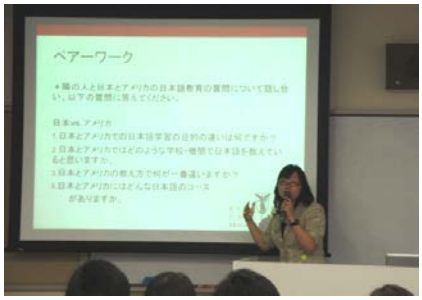
地区会長でもある松田学長が冒頭「東日本大震災への支援を教大協としても見える形で行おうとしており，本学もボランティア学生の派遣などを検討している。また，国立大学は一層の改革を求められており，教育大学，教育学部の見直しを含めて忌憚のない意見交換ができればありがたい」とあいさつ。議長に八木規夫三重大学教育学部長を選出し，2010 年度の事業報告，決算報告，2011 年度予算案，地区会規則の一部改正などを審議，いずれも原案どおり了承された。

意見交換では各県の教員採用の動向や教員養成のあり方などについて活発な意見が交わされ，次回は静岡大学で開催とすることを確認して約 2 時間の会議を終えた。

学術講演会「アメリカでの日本語教育」(5/27)

本学協定校のボールステート大学（米国インディアナ州）で日本語教育の教鞭をとる松本一美氏による学術講演会「アメリカでの日本語教育」が 5 月 27 日（金）午後 4 時 30 分から第二共通棟 1 階 412 教室で開催された。

この講演は，アメリカでの日本語教育についての知識を深めるため，日本語教育の 1，2 年生をはじめ，全学の教職員を対象に実施。将来，海外で日本を教えてみたい人，海外の日本語教育に関心のある人など約 50 人が参加した。



松本氏は，アメリカでの日本語教育について，学習者や教師の数，アメリカ人にとって日本語は学びやすい言語なのか，日本語学習の目的や興味を持つ理由などを紹介した。

質疑応答では，アメリカでの勉学の経済的基盤をどのように得るかの質問に，「テーチングアシスタントの制度，奨学金制度の利用ができる」，教える職を得るにはどうするのかの問いには，「最初はボランティアの学習パートナー，チューター等の制度に参加し，経験を積んでいくことが役に立つのではないか」などとアドバイスした。

参加した学生たちは「日本語教育といえば，東南アジアやブラジルのイメージが強かったので，アメリカでの日本語教育は新鮮な感じがした。今まで日本語教師になる希望は特にありませんでしたが，将来の目標の一つとして視野に入れるきっかけになった。参加してよかった」と感想を話した。

また，松本氏は講義に先立って，松田正久学長を表敬訪問し，双方の大学の交流状況や，ボールステート大学の教育システムの概要，本学とのダブルディグリー制度の整備などについて懇談し，互いに今後も交流を一層深めていく意向を確認した。

知立市議団来学(5/30)

知立市議会の議員団が 5 月 30 日（月）午後，本学を訪問し，意見交換，施設見学などを行った。一行は坂田修議長，佐藤修副議長をはじめ市議 22 人と議会事務局長ら職員 3 人の計 25 人。同議会議員は 23 人おり，公務の 1 人を除いてほぼ全員が参加したことになり，議会全体での異例の視察となった。

第三会議室での説明会は稲吉隆教育創造開発機構運営課長の司会で始まり，都築繁幸理事（学生・連携担当），岩崎公弥理事（教育担当）が議員団を歓迎。都築理事が「出張中の松田正久学長からはくれぐれもよろしくとのことでした。知立駅は本学への玄関になっています。限られた時間ですが，本学のことを知っていただければありがたい」とあいさつ。坂田議長は「知立市と愛教大が昨年 12 月に包括協定を結び，ようやく大学を訪問できてうれしく思います。人的，知的交流をしっかり深め，協定の意義を高めたい。よいとこ祭りに学生のお知恵を借り，参加もお願いしたい」と今後の交流に期待した。

都築理事が本学の概要を，岩崎理事が教育実習などについてそれぞれ説明。続く施設見学では学生サポートセンター，附属図書館，天文台を見て回り，大学会館で休憩し，質問を受け付けた。市議からは「学生ボランティアの現状は」「市街地活性化への大学の連携の考え方は」「学生の卒業後のフォローアップシステムは」などの質問が出され、心理教育相談室，本学の食育キャラクター「食まるファイブ」に関連した大学ブランド食品販売に関するものも。都築理事の回答を熱心に聞き入り，一行は約 2 時間の訪問を終え，バスで本学を後にした。

名誉教授称号記授与式(5/31)

本学で長年教壇に立ち、昨年度末に定年を迎えた教員へ名誉教授の称号を贈る「愛知教育大学名誉教授称号記授与式」が 5 月 31 日（火）午前 11 時 30 分、本部棟の第五会議室で行われた。

今年，対象になったのは 10 人。松村常司、神谷孝男、安武知子、寺中久男、芹澤俊介、市橋正一、西村敬子、近藤潤三、小川秀夫、藤江充の各氏。式には、うち 7 人が出席し、松田正久学長から一人ひとりに名誉教授称号記が手渡された。

松田学長は、「今日、めでたく名誉教授授与式を迎えられ、おめでとうございます。国立大学法人は厳しい中に置かれています。また、3 月の大震災、原発事故でなかなか先が見えてこない今こそ、この国の将来を考えないといけない。皆さま方には、これまでの経験を生かしていただき、本学の支援を引き続きお願いしたい」などと、お祝いの言葉を贈った。

名誉教授を代表して、村松氏は「学長を中心に、さらに団結していただき、大学のますますの発展をお祈りいたしております」とあいさつ。

式の後、講堂前で記念撮影が行われ、第一会議室では懇談会が開かれて、名誉教授の面々と理事らが昼食を取りながら歓談した。

お知らせ・報告・投稿

中学校・学級づくりセミナー（報告）

5 月 14 日（土）に第一共通棟 3 階で、本学学生が主体となって企画運営した「中学校・学級づくりセミナー」が行なわれ、その報告が寄せられました。

＊　　＊

本学内で、5 月 14 日に学級経営についてのセミナーを行いました。僕の中でセミナーというものは、講師の話を聞き、そこから学ぶということが一般的だと感じていました。しかし、僕は参加者同士の交流もしたいと考えました。理由は、このようなセミナーに参加している『積極的に学ぼうとしている方々』が同じ場所に集まっているのにもかかわらず、お互いの事を知らぬまま終ってしまっているから。せっかくなら、講師の方々から学んだことを、参加者同士で共有する機会を設けて繋がりを創ってもらいたい。学ぼうとしている方々が繋がり合ってほしい。特に先生方には学生と繋がっていただき、様々なことを教えていただきたい。そのような願いのもとに、今回のセミナーはグループ活動でセミナーの振り返りの時間を用意したり、昼食を共にしてもらいました。

セミナーには全国各地から 6 名の講師をお招きし、参加者 100 人規模という大きなセミナーとなりました。現職教員と教職志望者、保護者やＮＰＯの方まで多彩な人が集まりました。講演を聴く以外に、グループ活動を取り入れ参加者同士が交流する活動や、「ファシリテーショングラフィック」という手法を取り入れるなど、新しいセミナーの形を見ることができました。

学生のアンケートでは、「講演内容だけではなく、現場の先生のお話も聞けて良かった。」などの声をいただけ、このようなスタイルにして良かったと感じています。今後も、愛知教育大学を拠点として「現職教員と教職志望者」が繋がり合える活動を行ない、教職志望者にとってより良い学習環境になるようにしていけたら良いなと考えています。

（初等・理科選修 4 年　日江井雄大）

附属岡崎中学校にスリKL校から義援金（報告）

附属岡崎中学校と交流のあるマレーシアのスリＫＬ（クアラルンプール）校から、震災復興の義援金の申し入れのメールが 5 月 13 日（金）に同中学校に届いた。

メールには英文のメッセージが添えられ、東日本大震災で被災した人々を援助するため集めた募金を、岡崎中学校を通じて被災者に届けてほしいとあった。寄付金は 1 万 600 マレーシアリン

ギット（日本円で約 30 万円）。同校では全国国立大学附属学校連盟に義援金として振り込み、震災で被害をこうむった附属学校園での備品の購入や、子どもたちの心のケア、被災した附属の家庭への支援などに役だててもらうという。

両校では本年度の国際交流活動が中止になったため、岡崎中学校の職員が今年８月にスリＫＬ校を訪問する際、感謝状を持参し、義援金のお礼をする予定にしている。また、生徒から直接お礼を伝えるため、スカイプを使ったテレビ電話での交流を行っていくことも計画している。

東海学生陸上競技対校選手権大会（報告）

5 月13 日(金)・14 日(土)・15 日（日）に、名古屋市瑞穂公園陸上競技場で、第77回東海学生陸上競技対校選手権大会が行われました。男子は、総合4位（1位中京大、2位岐阜経済大、3位至学館大）、女子は総合3位（1位中京大、2位至学館大）でした。種目別で表彰台に乗ったのは以下の通りです。

・400m 優勝 中野弘幸(M1)、
・4×400ｍＲ　優勝　愛知教育大学 日比野陽平(4) 平野達也(3) 上田祐貴(M1) 中野弘幸(M1)、
・三段跳　2位　佐脇匠(2)
・400m　2位　木引悠起子(1)
・800m　優勝　愛敬世菜(3)　3位　安藤実来(1)
・3000ｍＳＣ 3位　花岡紗耶(3)
・4×100ｍＲ　2位　愛知教育大学 近藤希実(4) 滝井亜由美(1) 木引悠起子(1) 成田幸代(4)
・4×400ｍＲ　2位　愛知教育大学 愛敬麻矢(2) 愛敬世菜(3) 近藤希実(4) 木引悠起子(1)
・走高跳　優勝　堂之下藍(2)
・棒高跳　2位　渡邉みなみ(M2)　3位　井上裕生(4)
・三段跳　優勝　大道爽香(1)
・砲丸投　2位　片嶋佑果(4)
・円盤投　優勝　片嶋佑果(4)
・ハンマー投　2位　武蔵千里(3)

（陸上競技部顧問　筒井清次郎）

催しもの案内

◆愛知教育大学第３回サイエンス・カフェ

6 月 4 日（土）17:00～20:00

自然科学棟５階地学 538 教室　入場無料，事前申し込み不要

17:00～　講座「宇宙線と放射線」（講師：児玉康一教授）
17:30～　講座「放射線と私たちの健康」（講師：榊原洋子講師）
18:00～　霧箱による宇宙線観察会
18:20～　カフェタイム
19:00～　「土星の観望会」（雨天時は講座のみ開催）

問い合わせ：理科教育講座　児玉研究室
℡0566・26・2346　E-mail:kkodama@auecc.aichi-edu.ac.jp

編集後記

18 日の「トラウマケア研修会」で習った「グラウンディング」というエクササイズの効果を実感しています。「足の裏が地面に着いている（＝ｇｒｏｕｎｄｉｎｇ）」、椅子に座って「お尻が座面に着いている」と静かに感じ取るだけで、不思議と気持ちが落ち着きます。例えば、仕事が立て込んで慌てているとき、AUE News の編集が間に合わず焦っているとき…、多くの場面で役立てています。限られたスペースでも、道具や誰かの助けもいらずにできるグラウンディン

グ、お勧めです。そんなケアの仕方が紹介された配布資料が、本学の心理教育相談室のサイト（http://www.jissen.aichi-edu.ac.jp/soudan/）にアップされていますので、どうぞ皆さんも自分のために、誰かのために、ご活用ください。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。
メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp　編集責任者：総務担当理事　折出　健二